

モモ栽培サポータークラブによる援農

1 対象

小牧市モモ生産者 53 戸、サポータークラブ員 46 名

2 背景

小牧市を中心としたモモ産地では、産地の維持や園地の放任化を防ぐため、平成 27 年からモモ栽培サポーター（以下、サポーター）による援農が行われている。サポーターになるためには「モモ栽培サポーター養成講座（以下、養成講座）」の修了が必要である。養成講座では生育ステージ毎に計 7 回の講習会を行い、技術と知識の習得を図っている。修了後、サポーターとなった人は要望のあった農家の所へ行き作業支援を行う。支援内容は袋掛け作業が主であったが、現在ではベテランのサポーターは摘蕾や収穫作業等も支援している。

3 活動の内容

これまでサポーターの活動はボランティアのみであったが、サポータークラブの活動拡大のため、令和 3 年度新たに有償の作業受託制度（援農コントラクター制度）を導入した。

コントラクター制度の導入に伴いサポーターの技術向上のために講習会資料を改訂し、農協の協力を経て作業動画を作成し、農協のホームページで閲覧できるようにした。また、作業品質向上のため、コントラクターになるための検定制度を設けた。検定は作業が適切に行われているか、単位時間あたりの袋掛け数が適正か、安全への配慮をしているか等、10 個のチェック項目をクリアする必要がある。作業の際には、チェック項目に沿って適切に作業できているか指導した。

4 活動の成果

コントラクター制度の導入によって、クラブ員数は制度導入前の令和 2 年度の 24 人に対して、試行的に導入した令和 3 年度は 31 人、本格的に導入した令和 4 年度は 46 人となった。

また、援農実績は令和 2 年度の 12 回に対し、援農コントラクター制度実施後の令和 3 年度は 102 回、令和 4 年度は 771 回と大幅に増加した。



講習会資料の改訂
(新たに作成した袋掛けマニュアル)



袋掛け作業支援